大島畠田遺跡から島津荘へ

都城市教育委員会文化財課
栗山　葉子

目次

一　はじめに

二　奈良・平安時代の都城盆地の概要
（一）島津荘成立以前
（二）島津荘成立期頃
（三）島津荘成立後

三　遺構・遺物からみる主要遺跡

一　はじめに

都城市は、九州南部の霧島山麓に広がる盆地です。平安時代の万寿年間（一〇二四～一〇二八）に、大宰府の役人であった平季基が都城盆地の荒れ地を開発し、関白藤原頼通に寄進したことで「島津荘」が成立した地といわれています。

しかしながら、都城市内では、これまで多くの発掘調査が実施されているにも関わらず、島津荘に関連すると思われる遺跡は発見されておらず、鎌倉時代に惟宗忠久（後の島津忠久）が築いたとされる館の伝承地が祝吉御所跡（郡元町）として残されているだけでした。

そのような中、平成一一年、ほ場整備事業に先立ち、金田町にある大島畠田遺跡の発掘調査が行われ、九世紀中頃から一〇世紀を中心とした約一万㎡に及ぶ大規模な居宅跡が発見されました。この九世紀中頃から一〇世紀は、日本の古代史において、律令制度が崩壊し、地方に新たな有力者が出現しはじめる頃にあたります。大島畠田遺跡は、まさに地方有力者の台頭を示す遺跡として大変貴重であることから、平成一四年に国指定史跡となり、平成二九年七月に、歴史公園として開園しました。

また、大島畠田遺跡の発掘調査以降、都城市では、数多くの古代の遺跡の調査が行われています。特に、県営ほ場整備事業に伴い実施した横市地区遺跡群の密度は高く、集落跡だけでなく、下級役人の居宅跡や生産遺跡などその内容はバラエティに富んでいて、都城盆地の古代を考えるうえで重要な成果となりました。

そして、平成二八年度に道路新設に伴う郡元西原遺跡の発掘調査では、平安時代末のＬ字に曲がる大溝の一部が発見され、これまで不明だった島津荘政所に関連する遺跡として注目され、現在も引き続き周辺の確認調査が行われているところです。

都城市教育委員会では、先にも触れたとおり国指定史跡大島畠田遺跡（以下、大島畠田遺跡）歴史公園開園に伴い、より多くの方々に大島畠田遺跡の魅力を知っていただこうと様々な取り組みを行っています。本論は、その一つとしてお引き受けした、宮崎県文化講座の内容に加え、都城盆地における古代の遺構や遺物の構成からうかがえる集落規模等から都城盆地における古代の主要遺跡について若干の考察を加えたものです。

二　奈良・平安時代の都城盆地の概要

奈良・平安時代の都城盆地の様相については、大島畠田遺跡の国史跡指定十周年を記念し行われたシンポジウム（都城市教育委員会二〇一二）をはじめ、桒畑光博氏・坂井秀弥氏・谷口武範氏・永山修一氏・山下大輔氏らによってまとめられているので、その一部を御紹介します。また、先行研究により、都城盆地の古代は、遺跡の増減などから、大きく「島津荘成立前」、「島津荘成立期頃」、「島津荘成立後」に分けられて述べられておりますので、それにあわせて御紹介します。

（一）島津荘成立以前

島津荘成立以前といっても、いつからいつまでを含むのかということになりますので、ここでは、律令制成立以後から島津荘成立以前について①奈良時代から平安時代初頭（八世紀～九世紀初頭）と②平安時代前半（九世紀中頃～一〇世紀前半）として御紹介します。

①奈良時代～平安時代初頭（八世紀～九世紀初頭）

最初に、奈良時代以前にさかのぼりますが、古代における都城盆地は日向国に属していました。『続日本紀』によると、日向国の成立は六九八年とされています。薩摩国は七〇一年に、大隅国は七一三年に日向国から分立し成立しました。この頃日向国は、朝廷に反旗を翻す隼人の居住する地域と隣接する非常に重要な地として位置付けられており、豊前・豊後国より旧大隅国縁辺部に大量移民が行われる等の政策がとられていました。

しかしながら、実際に都城市内の発掘調査を行っても、奈良時代の遺跡、特に八世紀前半の遺跡はほとんどみつかっていません。奈良時代以前の古墳時代など古墳や集落跡はそれ相応にみつかっていますので、人が住んでいなかったということはないと考えられますが、今のところ明確な集落はみあたりません。これは、南九州全域に共通する傾向であるといわれています。都城盆地で古代の遺跡が確認できるようになるのは、奈良時代の後半から平安時代初頭（八世紀後半～九世紀初頭）のことです。図1は都城盆地におけるこの時期の遺跡分布を示したものです。大淀川流域を中心に、その支流域にも数か所の遺跡が認められます。代表的な遺跡として、早鈴町の上ノ園第2遺跡や下川東四丁目の中尾下遺跡、大岩田町の横尾原遺跡があります。

上ノ園第2遺跡は、民間開発に伴い、約一万㎡の調査を実施し、古代の掘立柱建物三一棟や溝状遺構・道路跡などの遺構のほか、「秦」と墨書された土器が三点出土しています（写真1）。永山氏は、「秦」は豊前国に多い姓であり、『続日本紀』にある和銅七年（七一四）の対隼人政策としての豊前国からの移民が都城盆地に及んでいた可能性を示すものとしています。

また、この時期には蔵骨器が出土する遺跡が認められます（図5・表3・写真2）。蔵骨器とは、火葬した骨を納める容器です。火葬は仏教の影響によるもので、身分の高い人々の間で広まり、国分寺・国分尼寺建立とともに地方に広まるといわれています。このような状況から、桒畑氏は、都城盆地における先駆的集落の担い手に律令政府による移民が含まれており、仏教をもたらしたのもこれらの移民である可能性をあげています。

先駆的集落を営んだ人々は、上ノ園遺跡にもみられるように都城盆地に文字を伝えた人々でもあります。中尾下遺跡では、「細」「寺」といった文字が墨書や刻書された土器がみつかっています。これらは非常に端正なものが多く字形の崩れたものがあまりありません。このように、先駆的集落を営んだ人々が、都城盆地に文字や仏教といった新しい文化をもたらしたと考えられます。

②平安時代前期（九世紀中頃～一〇世紀前半）

古代において、都城盆地が最も栄えた時期といえます。日本の歴史上ではどのような時期だったかというと、公地公民が崩れ、班田収授が立ち行かなくなっていき、地方に新たな有力者たちが出現しはじめた頃です。また遣唐使の廃止（八九四）や菅原道真が大宰府に左遷された（九〇一）のもこの頃のことです。

図2は、九世紀中頃から一〇世紀前半の遺跡分布を示したものです。都城盆地全体に遺跡が分布しているのがわかります。この状況を桒畑氏は「第1次開発ラッシュ」と呼んでいます。代表的な遺跡は高木町の並木添遺跡、金田町の大島畠田遺跡、蓑原町の馬渡遺跡、高城町の真米田遺跡などがあります。盆地全体で遺跡が増加しますが、先に触れたように、横市川流域における遺跡の密度は非常に高いものがあります。また、大淀川支流の上流域まで遺跡が営まれるようになるのもこの時期の特徴です。ただし、遺跡は増加するものの、現在のところ公的施設と断定できる遺跡は見つかっていません。

並木添遺跡は、現在の国道10号線と高速道路が交わる付近に位置

しますが、ここからは、調査区内において、約四二〇mにわたり北東―南西方向に延びるほぼ直線状の道路跡がみつかりました。最大幅は六mあります（写真3）。古代官道にみられるような両側に側溝は認められませんでしたが、当時の都城盆地における主要な道路であったと考えられています。ここから刃、下級役人が身につける石の帯飾り（石銙）も出土していることから、役人がこの地を訪れた可能性を物語っています。また、南横市町の平田遺跡B地点では幅約五mで両側に側溝を持つ道路跡が見つかっています。こちらは横市川にむかって延びており、遺跡から横市川へ向かう道路跡であったと考えられます。このほか、古代の遺跡からは、掘立柱建物跡などとともに集落内の道路跡が数多く見つかります。

地方有力者の邸宅跡と考えられている大島畠田遺跡は、都城盆地のほぼ中心に位置しています。約一万㎡の範囲には、区画溝や門で区切られた敷地内に、約八八坪（約二九〇㎡）もある大型建物跡（掘立柱建物跡）とその南側には池状遺構と池の中島には御堂のような掘立柱建物跡などが配置されています（写真4・図6）。当時の平安京貴族の邸宅を思わせる造りです。ただし、池状遺構については、常時水が溜まるものではなく、雨季などに水が溜まる通常は水なしの池だったことが科学分析からわかっています。大島畠田遺跡の中心建物といわれる大型建物は、総面積が大きいだけでなく、建物の中心部分の身舎の周囲に廂が巡り、その外側に縁が巡る造りとなっています。このような周囲に廂が巡る建物を四面廂建物跡と呼んでいます。日向国でも現在のところ限られた遺跡でのみ確認されています。また、門跡については、門柱の両脇に控え柱がつく四脚門と呼ばれ、平安京では大臣以上でなければ構えることのできない非常に格式の高い門です。このように建物跡からも通常の集落ではないことがわかりますが、遺跡から出土する遺物からもそれは見て取れます。大島畠田遺跡からは、大量の貿易陶磁器や国産施釉陶器がみつかりました。これらは、当時の平安京貴族の間でもてはやされた嗜好品で、一般的な人が保有することはなかったと考えられています。また、大島畠田遺跡からは、土師器（素焼きの土器）が千枚以上みつかっています。土師器は、飲食に用いられますが、通常酒宴の席で用いられ、一度使用すると廃棄されると考えられており、この遺跡の主が頻繁に宴会を開いていたことが想像されます。また、文字が墨書された土器も多く見つかっており、「春」、「泉」といった文字が確認されています。また、遺跡内からは漆に関連する遺物や鍛冶関連の遺物も出土しており、遺跡内に工房があったことが考えられています。

大島畠田遺跡の規模にはおとりますが、横市川流域にある馬渡遺跡からも四面廂の建物跡が見つかっています（写真5・図7）。遺跡は、自然の浅い谷や溝状遺構などで区切られ、南北約七五m、東西約六五mの推定面積約四八〇〇㎡の範囲に四面廂建物や掘立柱建物跡が建てられていました。馬渡遺跡の四面廂建物跡は約八七㎡と大島畠田遺跡のものとはくらべものにはなりませんが、やはり、一般的な建物とはいません。遺跡からは、大島畠田遺跡同様、貿易陶磁器や国産施釉陶器が多く見つかっているほか、「財」、「永」と墨書きされた土器が出土しています。特に「財」は、当時このあたりが「財部郷」に属していたと考えられているため、その関連が示されています。また、ここからも下級役人が身につける石の帯飾りが出土しており、遺跡の規模や出土品から、下級役人の居宅跡と考えられています。この下級役人の装飾品と考えられている石の帯飾りは、都城市内で現在七ヶ所の遺跡で八個が確認されています。先に触れた並木添遺跡、大島畠田遺跡、馬渡遺跡、ニタ元遺跡（志比田町）、加治屋B遺跡（南横市町）、筆無遺跡（今町）、笹ケ崎遺跡（梅北町）です。方形の巡方が大島畠田遺跡、加治屋B遺跡、筆無遺跡から、半月上の丸鞆が並木添遺跡、馬渡遺跡、ニタ元遺跡、

笹ケ崎遺跡からみつかっており、下級役人との関連が想定されます。

真米田遺跡は、約一万一千㎡の面積を調査し、二七棟の掘立柱建物跡をはじめ、溝状遺構や道路跡等がみつかっています。掘立柱建物跡は総面積が約六一㎡と、廂を持たない建物としては都城盆地最大のものです。また、素焼きの土器である土師器の坏と甕を焼いた焼成土坑もみつかっており、単なる集落というよりも、公的機関に関連する遺跡の可能性が考えられています。

このほか、この時期には南横市町の坂元A遺跡で水田跡が、同じく南横市町の星原遺跡からは畠跡といった生産遺跡も確認されています。

このようにこの時期に非常に多くの遺跡が営まれますが、これらの遺跡のほとんどは、一〇世紀後半を境に減少していきます。

（二）島津荘成立頃（一〇世紀後半～一一世紀）

冒頭でも触れたように、島津荘成立は、万寿年間（一〇二四～一〇二八）といわれています。大宰府の役人であった平季基が開発した当時は荒地が広がっていたといわれていましたが、これは、開発にあたる常套句と言われていました。しかし、実際に都城盆地の発掘調査成果をみていくと、九世紀中ごろから一〇世紀前半に営まれた遺跡のほとんどが衰退していきます。図3は、この頃の遺跡の分布図を示したものです。特に都城盆地北部ではほとんどといっていいほど遺跡がみあたりません。大淀川支流の沖水川や横市川以南の支流域に遺跡が点在する程度です。ですから、平季基が都城盆地を開発した当時の都城盆地は、実際に集落が衰退するとともに管理する人々を失った荒地が広がっていた可能性が考えられます。表1は都城盆地の主要な遺跡の一覧表ですが、この中の時期が一〇世紀後半から一一世紀にあてはまるところが該当する遺跡です。遺跡数だけでなく、遺跡を構成する遺構を見てみると、構成する掘立柱建物跡の数がそれ以前の時期の数に比べ少ない傾向があります。もちろん、調査面積の違いや調査範囲がたまたま集落の外れを中心としている可能性もありますが、九世紀中頃から一〇世紀前半の遺跡と比べ小規模な集落が多い可能性があります。

しかしながら、早水町の池ノ友遺跡や南横市町の坂元B遺跡、今町の筆無遺跡、安久町の永田藤束遺跡からは、貿易陶磁器が出土しており、相応の財力の持ち主がいたことがうかがえます。

（三）島津荘成立後

図4は、島津荘成立後の一二世紀の遺跡分布を示したものです。一〇世紀後半から一一世紀に比べ、遺跡が増加していることがわかります。しかしながら、第一次開発ラッシュといわれる九世紀中頃から一〇世紀前半に比べると、遺跡数は多くありません。また、遺跡の分布をみると、島津荘成立期頃同様、都城盆地南部に遺跡が多くみられます。大淀川支流の沖水川や横市川流域に集中がみられるのも特徴です。表2をみていただくと、この時期の遺跡の大半から貿易陶磁器の白磁が出土していることがわかります。特に永田藤束遺跡からは白磁の水滴や獣脚（人形か）がみつかっています。このように、また図4をみていただくと、経塚の造営が認められることもかわります。経塚は早水町の沖水古墳や安久町の松ケ迫1遺跡、松ケ迫第3遺跡など南部に多くみられますが、茶臼ケ陣跡や太郎坊中原遺跡など、北部にも認められます。

時期をまたぐものの一〇世紀後半から一二世紀にかけて、沖水川以南の都城盆地南部を中心に楕円形周溝墓と呼ばれる墓が認められます。これは、楕円形のドーナツ状に溝を掘り、その内側に遺体を埋葬する穴が設けられたものです。現在、高城町の真米田遺跡、早水町の池ノ友遺跡、池島遺跡、今町の筆無遺跡、曽於市チサノ木遺跡で確認されています。このような墓は、佐賀県北端部や福岡県小

郡市で一〇世紀代を中心とするものが多く見つかっています。このことから、九州北西部と都城盆地の交流を示すものとして注目されており、島津荘開発に関連する人物がこれらの造営に関わった可能性も考えられています。

三　遺構・遺物からみる主要遺跡

前段で都城盆地の古代について概要を御紹介したところですが、大島畠田遺跡が地方有力者の邸宅とされる理由については、その邸宅規模や構造、出土遺物が当時の平安京貴族のそれに劣らないという点があげられます。

そこで、大島畠田遺跡大型建物の規模について、都城盆地の主要遺跡から検出されている掘立柱建物跡との比較、また日向国府正殿や平安京貴族の邸宅跡の建物と比較してみたいと思います。表５～８は、大島畠田遺跡を含めた都城盆地の主要な遺跡の掘立柱建物跡についてまとめたものです。規模は桁行と梁間、面積で示しています。平面指数は、家原圭太氏による都城（とじょう）とその周辺の四面廂建物の研究でもちいられたもので、一般的な掘立柱建物に適用できるものではないと考えられますが、参考として挙げています。これは、梁行総長／桁行総長×一〇〇で表したもので、家原氏によると、四面廂建物では、官衛などの公的施設の建物のピークは五〇以下で、邸宅は六一～七〇に、集落は七一～八〇にピークがみられるとされています。この指数が五〇以下になればなるほど平面が長方形の建物になり、一〇〇に近づくほど平面が正方形の建物ということになります。大島畠田遺跡の大型建物あとは、約六四ですので邸宅の範囲に入ります。下級官人の居宅である馬渡遺跡の四面廂建物は集落に該当するといえます。あくまで参考値ですが、これをあてはめていくと、その割合で遺跡の性格に差が出てくる可能性も考えられます。大島畠田遺跡や真米田遺跡では五〇以下のものが一定数認められます。

また、規模に関してみてみると、大島畠田遺跡や真米田遺跡、加治屋Ｂ遺跡では、五間×二間以上の規模の建物が認められ、他の遺跡よりも建物の軒数だけでなく規模も大きいことがわかります。都城盆地の表５～８に上げた主要遺跡の掘立柱建物跡の総面積の平均は一間×一間が約八㎡、二間×一間が約一〇㎡、二間×二間が約一五㎡、三間×一間が約一九㎡、三間×二間が約二二㎡、四間×一間が約三四㎡、四間×二間が約三二㎡、五間×二間が約五一㎡、六間×二間が約五四㎡となり、面積も当然ながら規模に比例することがわかります。四間×一間が四間×二間の平均よりも大きいのは、この四間×一間が大島畠田遺跡からのみ検出されており、やはり、規模が大きいためと考えられます。なお、都城盆地の主要遺跡の最も多い規模は三間×二間で、面積は二〇㎡前後ということが言えます。

その他、真米田遺跡や本池遺跡、馬渡遺跡、加治屋Ｂ遺跡、星原遺跡、平田Ｂ遺跡では、掘立柱建物跡の梁間の両側の柱穴が間の柱穴よりも深い例が認められます。この建物の規模をみると、遺跡の中でも比較的規模が大きいものに認められる傾向があるようです。これは真米田遺跡、加治屋Ｂ遺跡、星原遺跡、平田遺跡においては、遺跡の中での各時期においても同様のことがいえるようです。しかしながら、大島畠田遺跡では、この傾向は認められませんので、大島畠田遺跡と他の遺跡では規模が違うということもありますが、建物を建てる職人が違う可能性も考えられます。

次に、日向国府の正殿（図９）と大島畠田遺跡の大型建物（図８）を比較してみると、日向国府の正殿は、七間（約一八・六ｍ）×二間（約五・九ｍ）で、南北に二面の廂を持ち、総面積は二二三・

二㎡です。日向国府の正殿は八世紀後半以降一〇世紀まで継続するため単純に比較はできませんが、大島畠田遺跡の大型建物のほうが大きいことがわかります。ただし、大島畠田遺跡の総面積には縁が含まれており、廂までの面積でいうと一八七㎡ですので、日向国府の方が大きくなります。

さらに、平安前期の大島畠田遺跡よりも若干古い平安京の貴族邸宅の主殿（図10）と比較してみると、約二四四㎡です。こちらは大島畠田遺跡と同じ四面廂の建物です。縁はついていません。このように、実際の専有面積でみると、大島畠田遺跡の規模の大きさがわかると思います。

最後に、遺跡から見つかる出土品についてですが、表2をみていただくと、すべての遺跡で土師器・須恵器が出土しています。また、製塩土器も大半の遺跡で出土していることがわかります。ここで注目したいのが、貿易陶磁器と国産陶磁器です。平安京では九世紀後半以降確実に増加する傾向があるといわれており、平安時代中期には中流貴族でも日常食器と使用されるほど多く輸入されていたと考えられています。

それを考えると都城盆地におけるこれらの出土はやはり目を見張るものがあるといえます。また、国産施釉薬陶器のうち緑釉薬陶器は多くの遺跡でみつかりますが、灰釉陶器は、大島畠田遺跡、真米田遺跡、馬渡遺跡と限られた遺跡のみ出土しています。これについても、これらの組み合わせを持つ遺跡というのが、都城盆地内でも地方有力者や下級役人に関連する遺跡である可能性があると考えられます。

今後、このようなより詳細な分析を進めることで、より具体的な奈良・平安時代の都城の姿を復元していくことにつながるのではないでしょうか。

【引用・参考文献】

家原圭太「都城と周辺地域の四面廂建物」『第一五回　古代官衙・集落研究会報告書　四面廂建物を考える』独立行政法人　国立文化財機構奈良文化財研究所

梅川光隆ほか一九九二『平安京右京六条一坊‐平安時代前期邸宅跡の調査‐』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第十一冊　財団法人京都市埋蔵文化財研究所

桒畑光博一九九八「都城盆地における蔵骨器集成『宮崎考古　石川恒太郎先生追悼論文集』宮崎考古学会

桒畑光博二〇〇九「島津荘は無主の荒野に成立したのか」『南九州文化』一〇九号　南九州文化研究会

桒畑光博二〇一三「大隅国建国後の隣接する地域の様相について‐都城盆地の遺跡を中心として‐」『大隅国建国一三〇〇年記念シンポジウム資料集　大隅国建国がもたらしたもの』霧島市教育委員会

坂井秀弥二〇一二「全国の古代遺跡からみた大島畠田遺跡」『国指定史跡大島畠田遺跡記念シンポジウム大島畠田遺跡の時代を語る』都城市教育委員会

谷口武範・福田泰典二〇〇八『国指定史跡　大島畠田遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第一七八集宮崎県埋蔵文化財センター

谷口武則二〇一二「大島畠田遺跡調査概要」『国指定史跡大島畠田遺跡記念シンポジウム大島畠田遺跡の時代を語る』都城市教育委員会

津曲大祐二〇一二『日向国府跡　平成二三年度発掘調査概要報告書』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書　第六二集

永山修一一九九七「律令制と都城」『都城市史　通史編　自然・原子・古代』都城市史編さん委員会

永山修一二〇一二「奈良・平安時代の南九州～大島畠田遺跡理解の前提として～」『国指定十周年記念シンポジウム大島畠田遺跡の時代を語る』都城市教育委員会

原山充志二〇〇八「源氏物語の「秘色」と「あをし」」リーフレット京都№二〇四（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

都城市教育委員会編『国指定十周年記念シンポジウム大島畠田遺跡の時代を語る』都城市教育委員会

山下大輔「都城盆地における九世紀後半～十世紀前半の様相」『国指定十周年記念シンポジウム大島畠田遺跡の時代を語る－島津荘成立以前の都城盆地の動向－記録集』
都城市史編さん委員会編二〇〇六『都城市史　資料編　考古』
＊都城市教育委員会発行の発掘調査報告書については割愛しました。

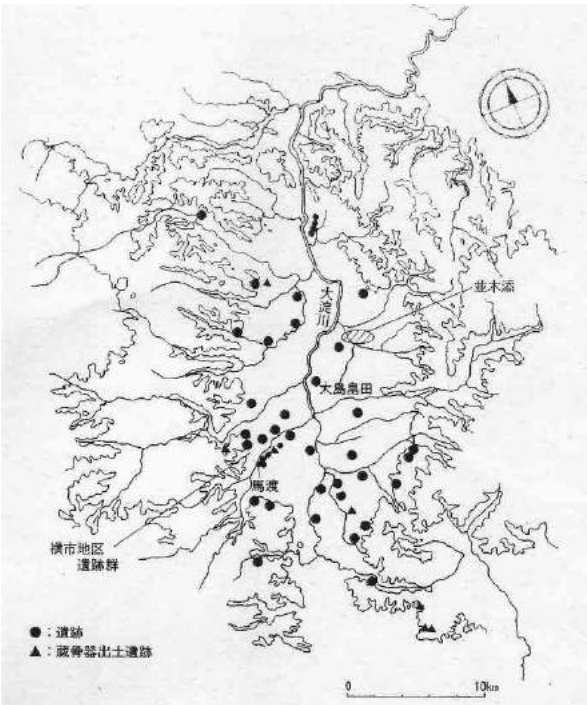

図２　９世紀中頃から10世紀の遺跡分布

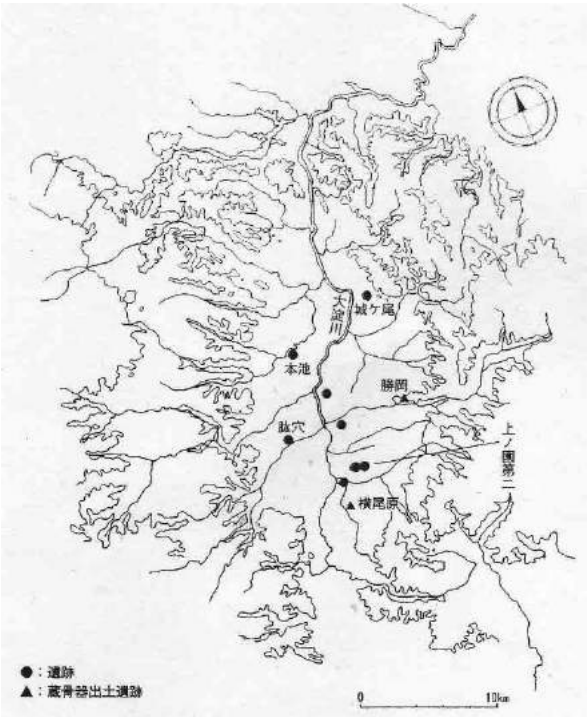

図１　８世紀後半から９世紀初頭の遺跡分布

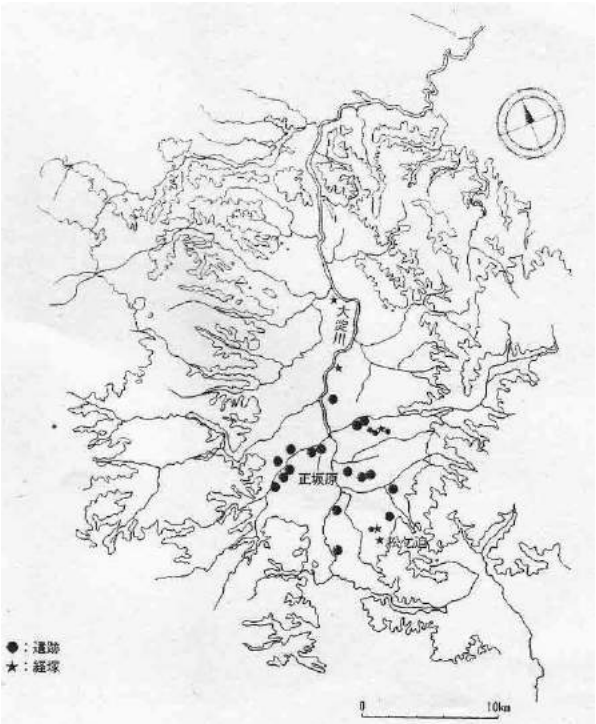

図４　12世紀の遺跡分布

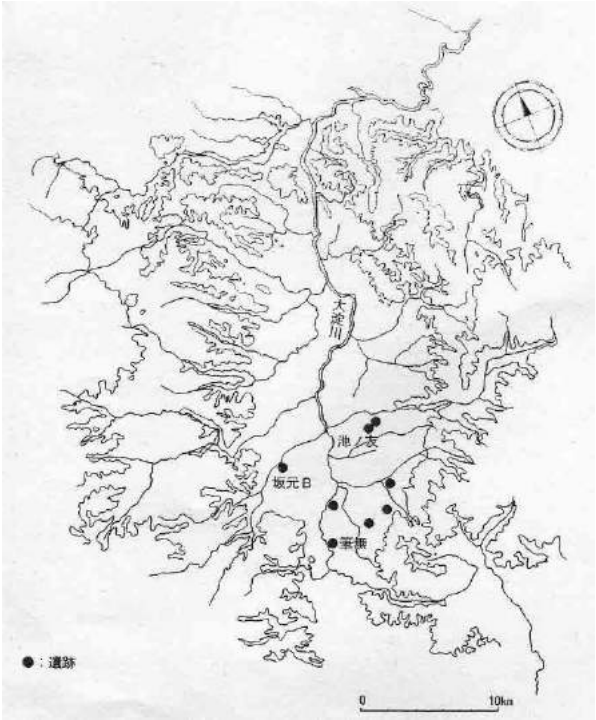

図３　11世紀の遺跡分布

（桑畑2009より転載）

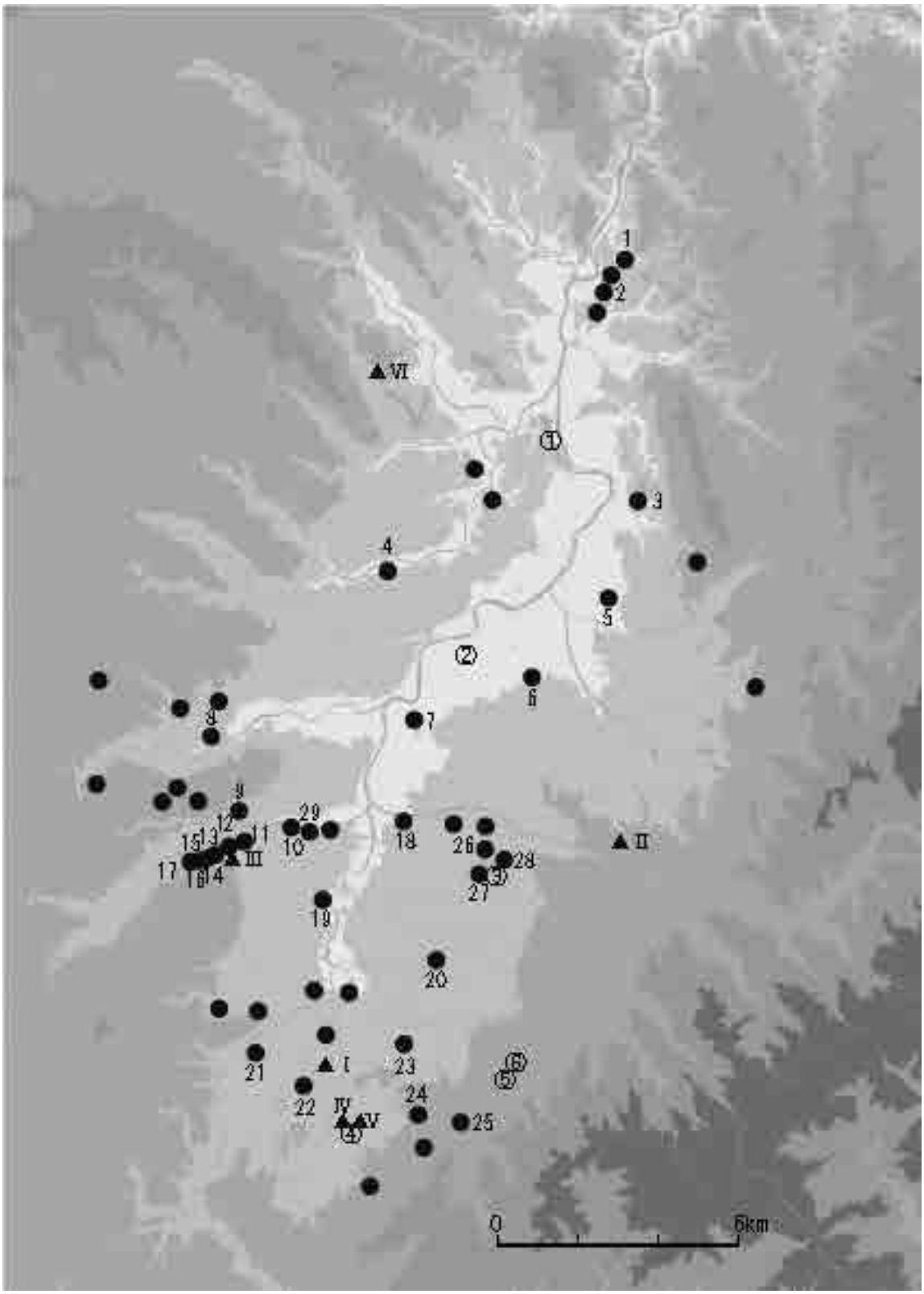

図5　都城盆地の奈良・平安時代の遺跡分布図

1:山城第1遺跡　2:上原第3遺跡　3:城ケ尾遺跡　4:本池遺跡　5:真米田遺跡　6:並木添遺跡　7:大島畠田遺跡
8:庄内西脇遺跡　9:肱穴遺跡　10:平田遺跡B地点　11:星原遺跡　12:加治屋B遺跡　13:坂元A遺跡
14:坂元B遺跡　15:江内谷遺跡　16:中尾山・馬渡遺跡　17:馬渡遺跡　18:中尾下遺跡　19:ニタ元遺跡
20:上ノ園第2遺跡　21:筆無遺跡　22:梅北針谷遺跡　23:永田藤東遺跡　24:王子原遺跡(4次)
25:王子原・上安久遺跡　26:郡元西原遺跡　27:池ノ友遺跡　28:池島遺跡　29:早馬遺跡

【蔵骨器出土地】

Ⅰ:横尾原遺跡　Ⅱ:勝岡　Ⅲ:加治屋遺跡　Ⅳ:尾崎　Ⅴ:益貫　Ⅵ:政所第2遺跡

【経塚】

①茶臼ケ陣跡　②太郎坊中原遺跡　③沖水古墳　④下久保遺跡　⑤松ケ迫第1遺跡　⑥松ケ迫第3遺跡

表1　都城盆地における奈良・平安時代の主要遺跡の検出遺構内訳（山下2013を基に加筆）

番号	遺跡名	所在地	調査面積	掘立柱建物跡＊下段：総柱建物もしくは廂付建物数。（ ）は廂面数で*太字*は総柱を表す。												竪穴状遺構	竈	溝状遺構	道跡	柵杭列	土坑	井戸	集石	土器集積	焼土坑	埋納	土坑墓	周溝墓	水田畠	時期その他
				1×1	2×1	3×1	4×1	2×2	2×3	4×2	5×2	6×2	3×3	不明他	合計															
1	山城第1遺跡	高城町有水	約20,000㎡						2						2	1								2						9c後～10c前
2	上原第3遺跡	高城町有水	10,000㎡		1										1															9c末～10c初頭
3	城ヶ尾遺跡	高城町石山	1662㎡						1						1															9c前半～10c前半
4	本池遺跡	丸谷町	10,000㎡						5	1				1	7						1									8c後半～10c前半
5	真米田遺跡	高城町穂満坊	10,900㎡			1			22 4		2	1		1	27			8	3	2	72				2			1		9c～10c
6	並木添遺跡	高木町	11,625㎡			1		1	1 1(1)						3			1		1		1								9c～10c
7	大島畠田遺跡	金田町	約10,000㎡	1	3	3	1	6 *2*	8 1(1)	5	3 1(1)	1		4	35			33	1	2	25									9c～12c中頃 門、池状遺構
8	庄内西脇遺跡	庄内町	168㎡	1					1 1(2)						2						10									10c前半
9	肱穴遺跡	横市町	約15,000㎡					1	1	2			1 1(2)	4	9	16	1				8				1				水田	8c～10c
10	平田遺跡B地点	南横市町	6,200㎡	13	4			1 *1*	4 *1*・1(2)	1					23			4	1		3		2			1				9c～10c
11	星原遺跡	南横市町	6,500㎡		2			2	7 1(1)					2	13	1		6	2		〉100								畠	9c後半～10c前半
12	加治屋B遺跡	南横市町	21,000㎡					2	9 3(1)	2 1(4)	1			1	15	6		6	9		14		4	1	1					9c前半～10c初頭
13	坂元A遺跡	南横市町	2,800㎡															1											水田	9c後半
14	坂元B遺跡	南横市町	6,500㎡		1				1 1(1)					1	3			8			15								水田	10c後半～11c代
15	江内谷遺跡	蓑原町	1,400㎡											1	1			3											水田	9c末～10c前半
16	中尾山・馬渡遺跡	蓑原町	約15,000㎡						4						4	1		2												9c～11c
17	馬渡遺跡	蓑原町	9,900㎡	3	3			3 *2*	5 2(2・4)					1	15	1		6			13				1					9c前半～10c初頭
18	中尾下遺跡	下川東4丁目	1,811㎡						2 1(1)						2					1										8c末～10c初頭
19	二タ元遺跡	志比田町	4,671㎡											1	1				1	1	1									10c～11c
20	上ノ園第2遺跡	早鈴町	約10,000㎡												31			5	7											8c後半～10c前半
21	筆無遺跡	今町	17,280㎡						1						1			4	3	2	4						2	1		9c～12c代
22	梅北針谷遺跡	梅北町	2,400㎡	1	2				1						4										11					8c後半～10c代
23	永田藤東遺跡	安久町	935㎡	2					2					1	5			3	3		10	1					1			11c～12c代
24	王子原遺跡(4次)	安久町	2,860㎡						1		1			5	7			4	12		35						1			11c末～12c中頃
25	王子原・上安久遺跡	安久町	6,665㎡										1		1			2	1		1			1			2			11c～12c代
26	郡元西原遺跡	郡元町	480㎡															1												11c～12c
27	池ノ友遺跡(1次)	早水町	約1,800㎡																									1		11c代
28	池島遺跡	早水町	3,400㎡																									1		11c
29	早馬遺跡	南横市町	4,700㎡																								1			11c～12c

表2　都城盆地における奈良・平安時代の主要遺跡の出土遺物の有無　＊○は出土有

番号	遺跡名	土師器						須恵器		製塩土器	国産施釉陶器		貿易陶磁器		漆器・木製品	滑石製石鍋	墨書・刻書土器	硯	土製品		石製品			鉄関連				軽石加工品	時期
		坏・椀類	甕	甑	移動式竈	黒色土器	その他	坏・椀類	甕・壺		緑釉陶器	灰釉陶器	青磁	白磁				転用	紡錘車	土錘	石錘	碁石	砥石	鉄製品	羽口	坩堝	鉄滓		
1	山城第1遺跡	○	○																										9c後～10c前
2	上原第3遺跡	○	○																										9c末～10c初頭
3	城ヶ尾遺跡	○	○	○					○	○	○																		9c前半～10c前半
4	本池遺跡	○	○			○		○	○	○				○			○		○				○	○					8c後半～10c前半
5	真米田遺跡	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○				○		○		○		○					9c～10c
6	並木添遺跡	○							○												○								9c～10c
7	大島畠田遺跡	○	○	○		○	鼎	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○転	○	○	○		○						9c～12c中頃門、池状遺構
8	庄内西脇遺跡	○	○			○		○	○	○			○										○	○	○		○	○	10c前半
9	肱穴遺跡	○	○			○	灯明	○	○	○	○				○		○		○	○								○竈脚	8c～10c
10	平田遺跡B地点	○	○			○			○	○	○水注		○				○		○				○		○	○	○	○	9c～10c
11	星原遺跡	○	○			○			○	○	○		○				○	○転	○	○				○			○	○	9c後半～10c前半
12	加治屋B遺跡	○	○					○	○	○	○		○	○				○転	○	○	○		○	○				○	9c前半～10c初頭
13	坂元A遺跡	○						○	○																				9c後半
14	坂元B遺跡	○	○			○		○	○																			○	10c後半～11c代
15	江内谷遺跡	○	○			○		○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○			○		○		○	○	9c末～10c前半
16	中尾山・馬渡遺跡	○				○			○	○	○		○																9c～11c
17	馬渡遺跡	○	○			○	耳皿	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○		○	○					9c前半～10c初頭
18	中尾下遺跡	○	○			○		○	○	○					○		○		○	○									8c末～10c初頭
19	二夕元遺跡	○	○			○	灯明		○	○			○	○			○	○転	○	○	○			○	○		○	○	10c～11c
20	上ノ園第2遺跡	○	○			○		○	○	○							○	○転											8c後半～10c前半
21	筆無遺跡	○	○			○			○	○	○	○	○	○		○転有	○		○	○	○		○	○					9c～12c代
22	梅北針谷遺跡	○	○		○	○	香子・灯明	○	○	○			○	○		○転	○		○	○		○	○	○	○		○	○	8c後半～10c代
23	永田藤東遺跡	○	○			○			○	○				○		○							○	○	○		○	○	11c～12c代
24	王子原遺跡（4次）	○				○		○						○		○補修具		○転					○						11c末～12c中頃
25	王子原・上安久遺跡	○	○			○			○					○			○												11c～12c代
26	郡元西原遺跡		○			○			○	○			○	○		○								○			○		11c～12c

表3　都城盆地における古代の蔵骨器出土一覧

番号	遺跡名・出土地点	所在地	内容
Ⅰ	横尾原遺跡	大岩田町	蔵骨器（須恵器）2、人骨、骨製簪？
Ⅱ	勝岡	三股町	蔵骨器（須恵器）3
Ⅲ	加治屋遺跡	南横市町	蔵骨器（須恵器）2、人骨、骨製簪？
Ⅳ	尾崎	梅北町	蔵骨器（須恵器）1
Ⅴ	益貫	梅北町	蔵骨器（須恵器）1
Ⅵ	政所第2遺跡	高崎町	蔵骨器（須恵器）1、越州窯青磁碗、土師器

表4　都城盆地における経筒出土一覧

番号	遺跡名	所在地	内容
①	茶臼ケ陣跡	下水流町	経筒
②	太郎坊中原遺跡	高木町	経筒
③	沖水古墳	早水町	経筒・軽石製外容器・湖州鏡
④	下久保遺跡	梅北町	経筒・軽石製外容器
⑤	松ケ迫第1遺跡	安久町	経筒
⑥	松ケ迫第3遺跡	安久町	経筒

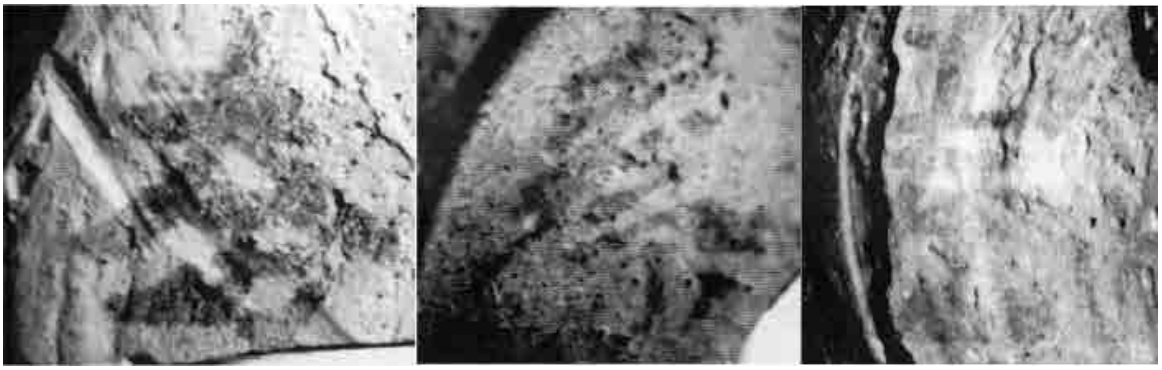

写真1　上ノ園第2遺跡出土墨書土器「秦」

写真2　横尾原遺跡出土の蔵骨器と骨製簪

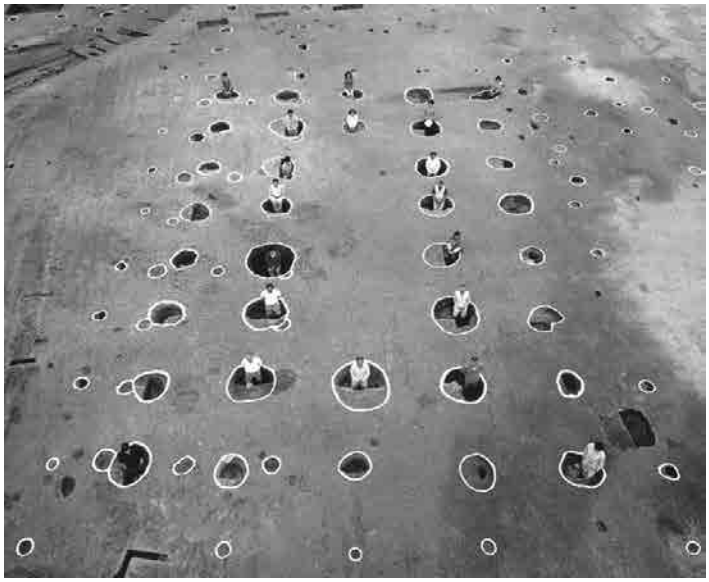

写真４　大島畠田遺跡全景

写真３　並木添遺跡の道路跡

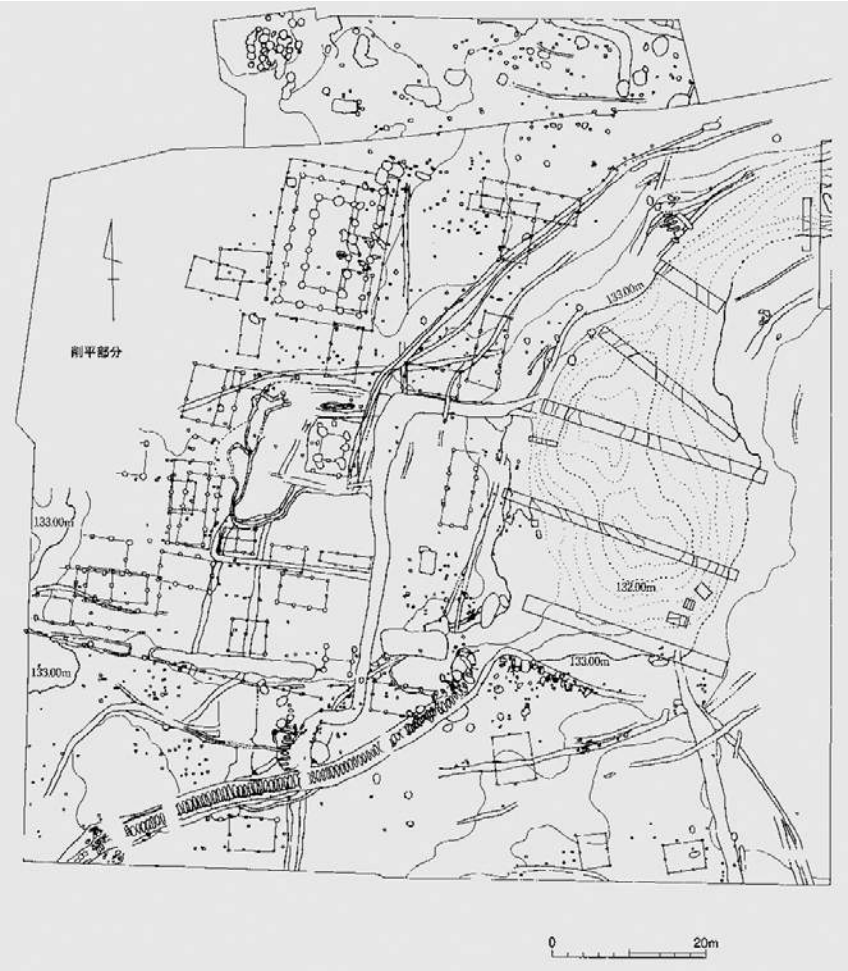

図６　大島畠田遺跡遺構配置図（谷口武範・福田泰典2008より転載）

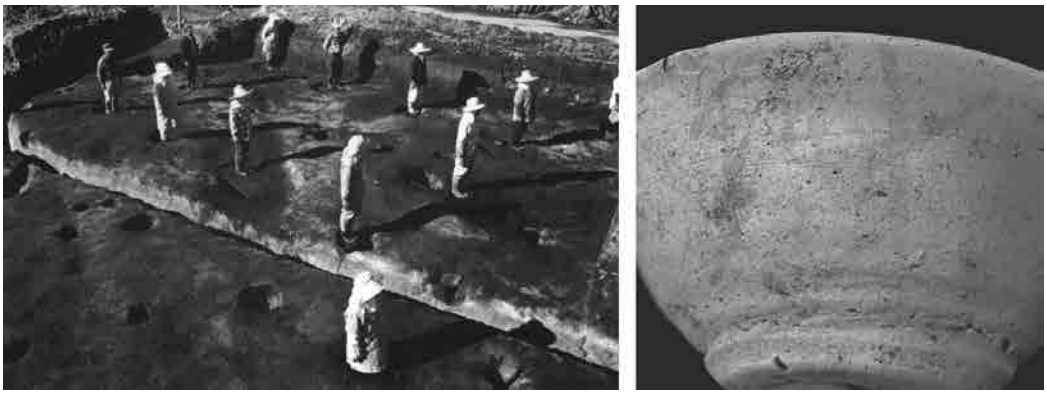

写真５　馬渡遺跡の四面廂建物跡と墨書土器「財」

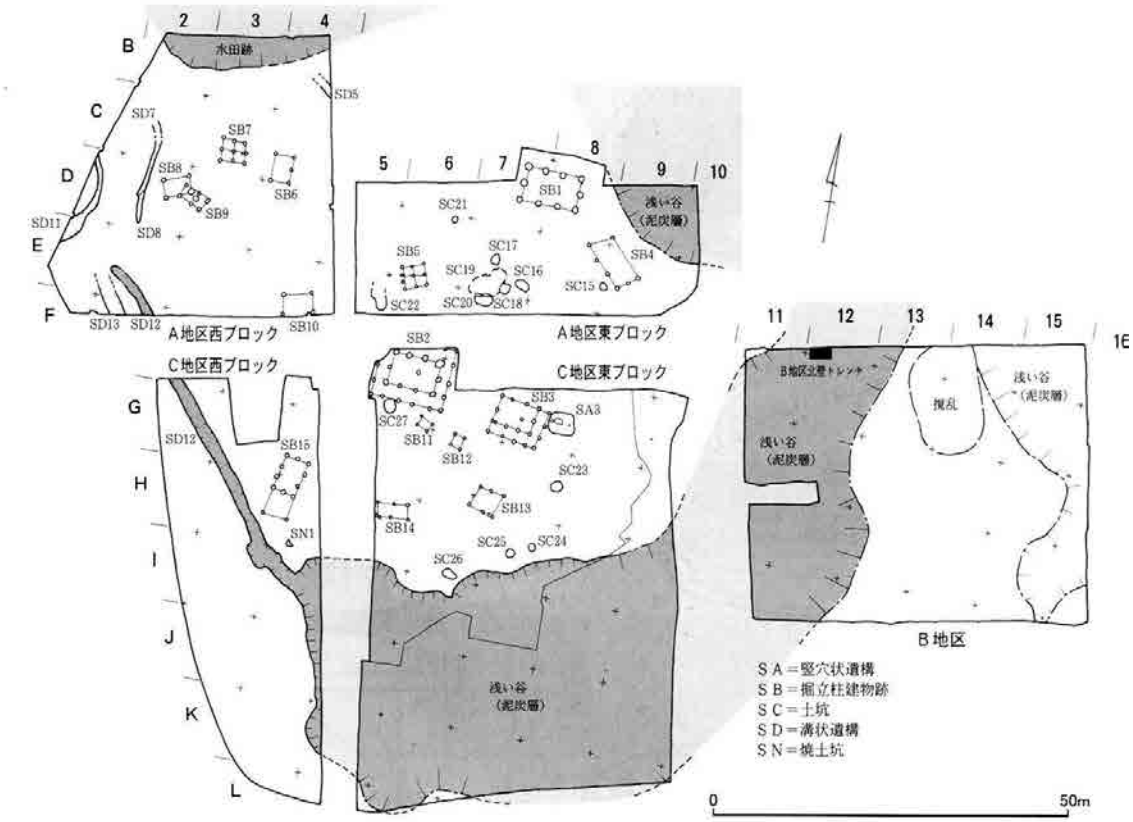

図７　馬渡遺跡の四面廂建物跡と墨書土器「財」（都城市史編さん委員会編2016より転載）

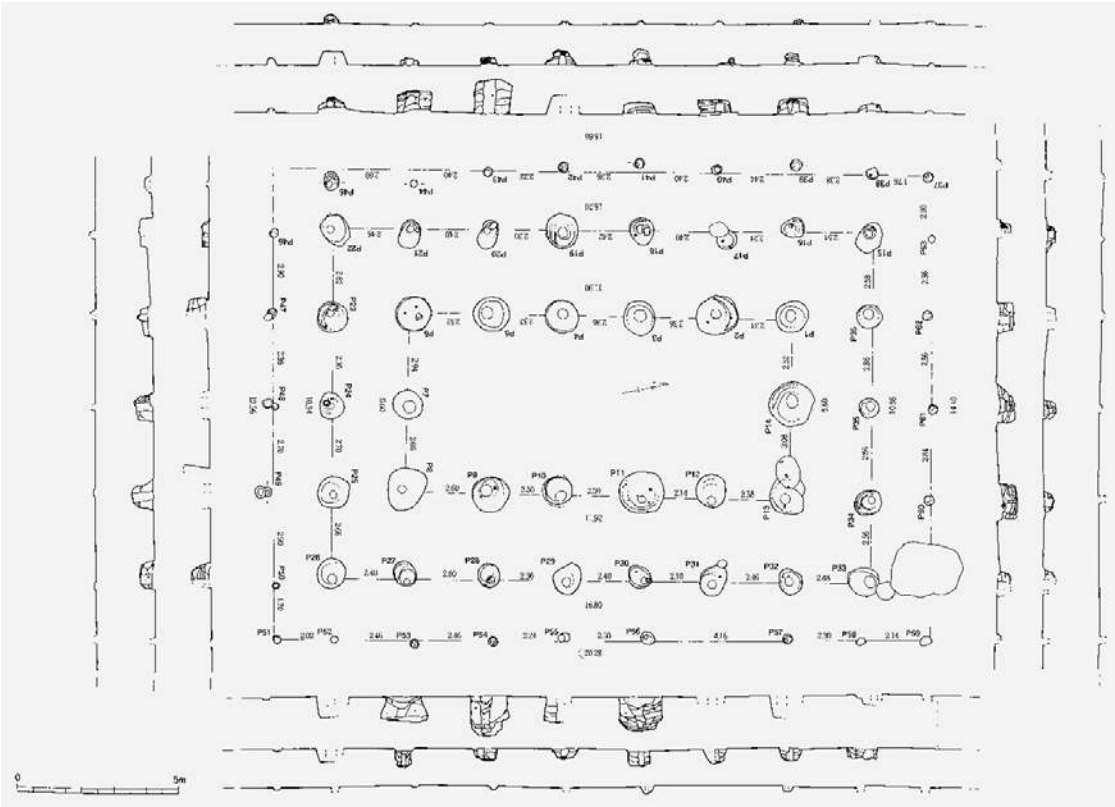

図8　大島畠田遺跡の大型建物跡（谷口武範・福田泰典2008より転載）

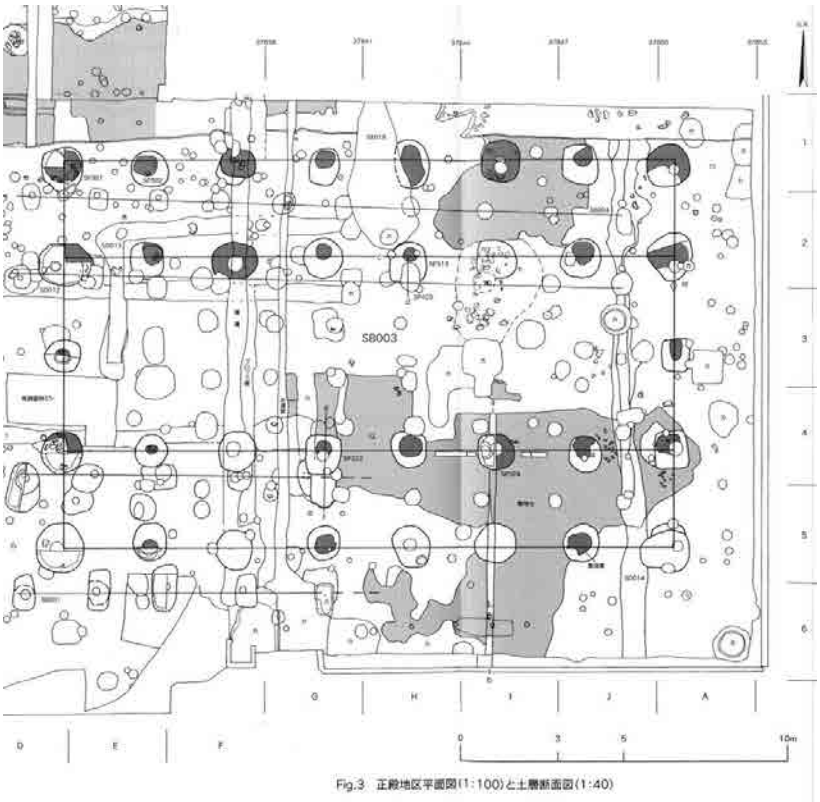

図9　日向国府正殿（津曲2012より転載）＊8世紀後半以降9世紀代

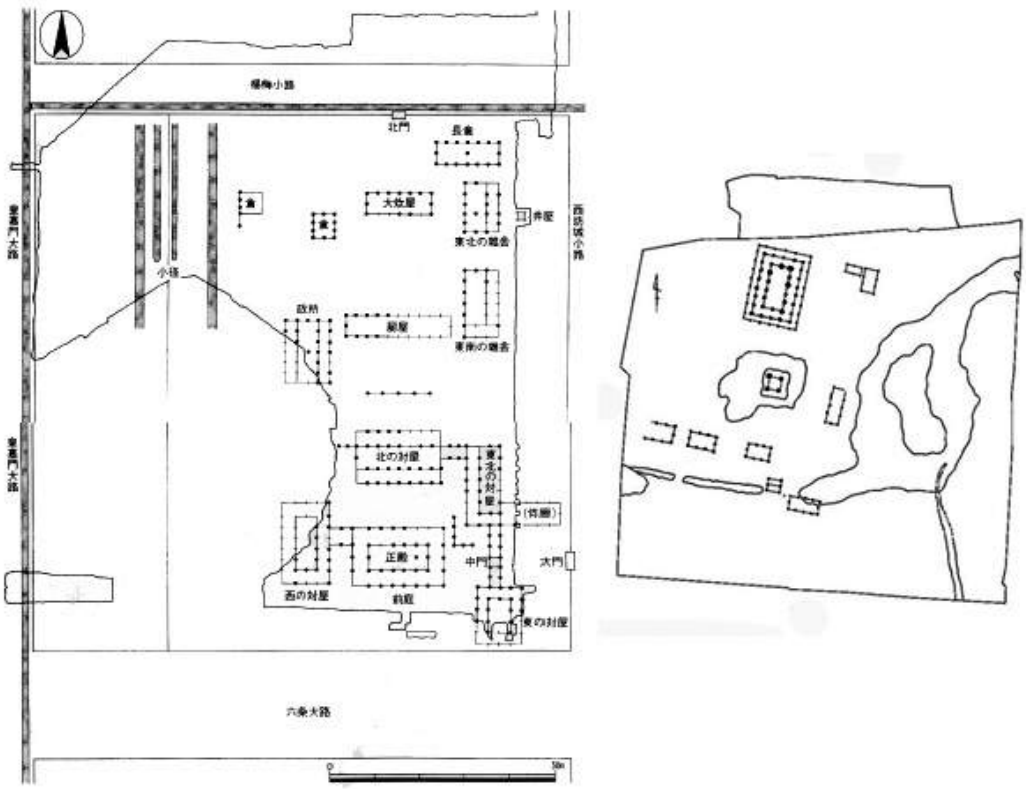

図10　平安時代前期の貴族邸宅跡（平安京右京六条一坊）の建物等配置と大島畠田遺跡の最盛期の建物配置
（左図：梅川光隆ほか1992より転載　右図：谷口武範・福田泰典2008より転載）

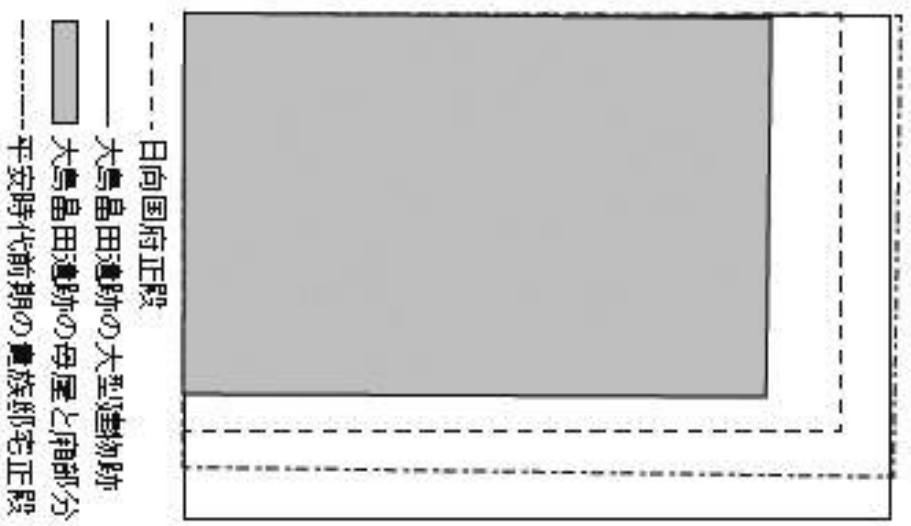

図11　大島畠田遺跡と日向国府正殿及び平安京前期貴族邸宅正殿との比較（右京六条一坊）

表5 都城盆地における奈良・平安時代の主要掘立柱建物跡一覧1

遺跡名	遺構番号	間数			桁			梁			面積			廂	棟方向	平面指数		備考	柱穴掘形径＊四面は身舎			堀形深		梁間端深
					実長	実長（廂含）	柱間（平均）	実長	実長（廂含）	柱間（平均）	身舎	廂	総面積			身舎	廂含		最小	最大	平均	浅	深	
大島畠田遺跡	SB3	5	×	2	10.96		2.15	4.7		2.35	48.47		48.47		南北	42.88			42	70		22	51	
大島畠田遺跡	SB26	3	×	2	6.3		2.10	4.04		2.02	25.25		25.25		東西	64.13			25	42		6		
大島畠田遺跡	SB30	3	×	1	6.5		1.62	1.5		1.50	9.4		9.4		東西	23.08			23	37				
大島畠田遺跡	SB31	2	×	2											東西			総柱	38	62		44		
大島畠田遺跡	SB32	2	×	2	4.83		2.42	4.32		2.16	19.34		19.34		東西	89.44		総柱？	26	37		34		
大島畠田遺跡	SB23	6	×	2	12.58		2.10	3.84		1.92	46.92		46.92		東西	30.52			32	66		19		
大島畠田遺跡	SB14	4	×	2	9.56		2.39	4.69		2.35	42.68		42.68		東西	49.06			44	73		10	47	
大島畠田遺跡	SB8	3	×	2	6.28		2.09	3.8		1.90	23.86		23.86		東西	60.51			38	71		30	63	
大島畠田遺跡	SB10	3	×	2	6.42		2.14	3.98		1.99	25.29		25.29		南北	61.99			32	47				
大島畠田遺跡	SB20	3	×	2	7.2		2.40	3.36		1.68	24.23		24.23		東西	46.67			33	54		14	42	
大島畠田遺跡	SB12	3	×	1	6.84		2.28	3.98		3.98	26.58		26.58		南北	58.19			38	63		28	52	
大島畠田遺跡	SB11	2	×	2	5.02		2.51	3.82		1.91	18.97		18.97		南北	76.10			28	52		12	32	
大島畠田遺跡	SB28	2	×	2	5		2.50	2.68		1.34	13.4		13.4		南北	53.60			25	47		14	20	
大島畠田遺跡	**SB1**	**5**	**×**	**2**	**11.92**	**16.76**	**2.38**	**5.6**	**10.86**	**2.80**	**66.75**	**182.01**	**290.3**	**四面**	**南北**	**46.98**	**64.80**		**86**	**146**		**39**	**107**	
大島畠田遺跡	SB16	5	×	2											南北				41	62		25	40	
大島畠田遺跡	SB17	4	×	2	8.1		2.30	3.74		1.87	30.21		30.21		東西	46.17			28	68		26	60	
大島畠田遺跡	SB5	4？	×	2											東西				53	84		14	63	
大島畠田遺跡	SB6	3	×	2	6.94		2.31	4		2.00	27.5		27.5		東西	57.64			51	80		31	78	
大島畠田遺跡	SB24	3	×	1	6.36		2.12	3.6		3.60	22.39		22.39		南北	56.60			32	63		27	72	
大島畠田遺跡	SB25	2	×	1	4.26		2.13	2.16		2.16	9.2		9.2		東西	50.70			25	40		20	27	
大島畠田遺跡	SB35	1	×	1	3.44		3.44	3.39		3.39	11.66		11.66		東西	98.55			84	127		97	116	
大島畠田遺跡	SB4	4	×	2	9.24		2.35	4.45		2.23	38.71		38.71		南北	48.16			35	67		13	63	
大島畠田遺跡	SB9	4	×	2	9.3		2.35	3.52		1.76	31.77		31.77		東西	37.85			40	63		11	54	
大島畠田遺跡	SB27	4	×	2	6.8		1.70	4.04		2.02	26.54		26.54		東西	59.41			17	35		17	48	
大島畠田遺跡	SB19	4	×	1	9.26		2.32	3.76		3.76	34.33		34.33		南北	40.60			33	67		17	52	
大島畠田遺跡	SB2	3	×	2	7.46		2.49	4.36	6.36	2.18	30.76	14.79	45.55	一面	南北	58.45			43	71		20	79	
大島畠田遺跡	SB7	2	×	2	4.36		2.18	3.1		1.55	13.41		13.41		東西	71.10			17	60		7	19	
大島畠田遺跡	SB21	3	×	2	5.04		1.64	3.66		1.83	18.22		18.22		東西	72.62			18	35		17	33	
大島畠田遺跡	SB22	2	×	2	6.04		3.02	5.06		2.53	30.57		30.57		南北	83.77			20	36		10	42	
大島畠田遺跡	SB18	2	×	1	4.36		2.18	3.74		3.74	15.5		15.5		東西	85.78			21	31		10	35	
大島畠田遺跡	SB15	4？	×	2？											南北				33	70		25	55	
大島畠田遺跡	SB29	4？	×	1？											東西				30	58		10	38	
大島畠田遺跡	SB33	3	×	2	6.14		1.02	4.26		2.13	25.68		25.68		東西	69.38			23	68		71		
大島畠田遺跡	SB13	2	×	1	4.32		4.32	3.14		3.14	11.91		11.91		南北	72.69			18	37		10	30	
大島畠田遺跡	SB34	？	×	？											南北				75	94		14	35	

桁・梁の単位は（m）、面積は（㎡）、柱穴掘形径・堀形深は（cm）。
梁間端深は、四隅の柱が深いものに●

表6 都城盆地における奈良・平安時代の主要掘立柱建物跡一覧1

遺跡名	遺構番号	間数			桁			梁			面積			廂	棟方向	平面指数		備考	柱穴掘形径＊四面は身舎			掘形深		梁間端深
					実長	実長（廂含）	柱間（平均）	実長	実長（廂含）	柱間（平均）	身舎	廂	総面積			身舎	廂含		最小	最大	平均	浅	深	
真米田遺跡	SB14	3	×	2	5.84		1.95	3.96		1.98	23.13		23.13		東西	67.81					40～60	20	46	
真米田遺跡	SB19	3	×	2	6.88		2.29	4.26		2.13	29.31		29.31		東西	61.92					40	25	42	
真米田遺跡	SB24	3	×	2	5.16		1.72	3.72		1.86	21.27		21.27		南北	72.09					40～50	45	69	
真米田遺跡	SB6	3	×	2	6.42		2.14	4.36		2.18	27.99		27.99		南北	67.91			30	68		16	67	
真米田遺跡	SB7	5	×	2	11.3		2.26	4.96		2.48	56.05		56.05		南北	43.89			80	120		35	100	●
真米田遺跡	SB8	5	×	2	10.69		2.14	4.64		2.32	49.60		49.6		南北	43.41			44	68		35	80	●
真米田遺跡	SB9	3	×	2	5.1		1.70	3.4		1.70	17.34		17.34		南北	66.67			26	48		23	62	
真米田遺跡	SB20	3	×	2	6.14		2.05	4.26		2.13	26.16		26.16		南北	69.38					30～40	16	40	
真米田遺跡	SB1	3	×	2	6.24		2.08	4.04		2.02	25.21		25.21		南北	64.74					20	5	35	
真米田遺跡	SB3	3	×	2	6.08		2.03	4.12		2.06	25.05		25.05		東西	67.76					40	3	40	
真米田遺跡	SB5	3	×	2	5.82		1.94	4.06		2.03	23.63		23.63		南北	69.76					20～30	3	16	
真米田遺跡	SB11	3	×	2	6.4		2.13	4.1		2.05	26.24		26.24		東西	64.06					30～50	45	75	●
真米田遺跡	SB15	3	×	2	6.88		2.29	4.2		2.10	28.90		28.9		南北	61.05					40～50	32	80	●
真米田遺跡	SB16	3	×	2	5.06		1.69	3.3		1.65	16.70		16.7		東西	65.22					30～40	15	35	
真米田遺跡	SB21	3	×	2	5.72		1.91	4		2.00	22.88		22.88		東西	69.93					40～50	46	64	
真米田遺跡	SB22	3	×	2	5.08		1.69	4.15		2.08	21.08		21.08		東西	81.69				23	44	3	40	
真米田遺跡	SB27	3	×	2	6.34		2.11	3.82		1.91	24.21		24.21		南北	60.25			25	50		8	34	
真米田遺跡	SB12	6	×	2	12.55		2.09	4.84		2.42	60.74		60.74		南北	38.57					30～40	27	95	●
真米田遺跡	SB18	3	×	2	5.3		1.77	3.9		1.95	20.67		20.67		南北	73.58					30・50	18	50	●
真米田遺跡	SB23	3	×	2	4.65		1.55	3.15		1.58	14.65		14.65		南北	67.74					40～50	45	69	
真米田遺跡	SB2	3	×	2	5.64		1.88	4.56		2.28	25.72		25.72		南北	80.85					50	46	56	
真米田遺跡	SB4	3	×	2	4.85		1.62	3.6		1.80	17.46		17.46		南北	74.23					30	45	65	
真米田遺跡	SB10	2？	×	1？											南北						35	8	36	
真米田遺跡	SB13	3	×	2	5.26		1.75	3.7		1.85	19.46		19.46		南北	70.34		総柱			20～30	42	70	
真米田遺跡	SB17	3	×	2	6.06		2.02	3.66		1.83	22.18		22.18		南北	60.40					40	22	60	
真米田遺跡	SB26	3	×	2	4.4		1.47	2.8		1.40	12.32		12.32		南北	63.64			25	40		15	40	
真米田遺跡	SB28	3	×	1	6		2.00	3		3.00	18.00		18		東西	50.00			25	40		12	28	
本池遺跡	SB1	3	×	2	7.1		2.37	4.25		2.20	30.70		30.7		東西	59.86			60	70		45	60	
本池遺跡	SB2	3	×	2	6.83		2.28	4.28		2.13	29.10		29.1		東西	62.66			60	80		45	55	
本池遺跡	SB3	3	×	2	6.85		2.28	3.5		1.73	24.2		24.2		東西	51.09			50	60		30	55	●
本池遺跡	SB4	4	×	2	8.38		2.10	4.04		2.02	35.20		35.2		南北	48.21			40	50		15	35	●
本池遺跡	SB5	3？	×	2											南北				50	60		35	40	
本池遺跡	SB6	3	×	2	6.3		2.10	4.75		2.38	30.40		30.4		南北	75.40			50	60		35	40	
本池遺跡	SB7	3	×	2	6.4		2.13	3.75		1.88	25.1		25.1		南北	58.59			50	60		35	45	
中尾下遺跡	SB01	3	×	2	6.4		2.13	3	4.4	1.50	19.20	8.6	27.8	一面	東西	46.88			39	63		50	76	●
中尾下遺跡	SB02	3	×	2	4.5		1.50	2.9		1.45	13.05		13.05		東西	64.44			29	54		25	56	

桁・梁の単位は（m）、面積は（㎡）、柱穴掘形径・堀形深は（cm）。
梁間端深は、四隅の柱が深いものに●

表7 都城盆地における奈良・平安時代の主要掘立柱建物跡一覧3

遺跡名	遺構番号	間数			桁			梁			面積			廂	棟方向	平面指数		備考	柱穴掘形径＊四面は身舎			堀形深		梁間端深
					実長	実長（廂含）	柱間（平均）	実長	実長（廂含）	柱間（平均）	身舎	廂	総面積			身舎	廂含		最小	最大	平均	浅	深	
馬渡遺跡	SB1	3	×	2	7.8		2.60	4.64		2.32	36.19		36.19		東西	59.49			80	98	90	30	66	●
馬渡遺跡	**SB2**	**3**	**×**	**2**	**6.87**	**10.2**	**2.29**	**4.59**	**8.62**	**2.29**	**31.53**	**56.39**	**87.92**	**四面**	**東西**	**66.81**	**84.51**		**70**	**90**	**90**	**30**	**75**	●
馬渡遺跡	SB3	3	×	2	5.48	7	1.82	3.83	5.34	1.92	20.99	16.39	37.38	二面	東西	69.89			35	45	40	15	45	
馬渡遺跡	SB4	3	×	2	6.6		2.20	3.44		1.72	22.7		22.7		南北	52.12					40			
馬渡遺跡	SB15	3	×	2	4.86		1.62	3.3		1.65	16.03		16.03		南北	67.90					50			
馬渡遺跡	SB5	2	×	2	3.04		1.52	3.02		1.51	9.18		9.18		南北	99.34		総柱			30			
馬渡遺跡	SB7	2	×	2	3.18		1.59	2.98		1.49	9.47		9.47		東西	93.71		総柱			30			
馬渡遺跡	SB13	2	×	2	3.6		1.30	3.13		1.56	11.26		11.26		東西	86.94					30			
馬渡遺跡	SB6	2	×	1	3.74		1.87	2.72		2.72	10.17		10.17		南北	72.73					30			
馬渡遺跡	SB9	2	×	1	3.45		1.72	1.89		1.89	6.52		6.52		東西	54.78					30			
馬渡遺跡	SB14	2	×	1	4.33		2.16	1.95		1.95	8.44		8.44		東西	45.03					20			
馬渡遺跡	SB8	1	×	1	3.52		3.52	2.31		2.31	8.13		8.13		東西	65.63					40			
馬渡遺跡	SB10	1	×	1？											東西？						40			
馬渡遺跡	SB11	1	×	1	1.8		1.80	1.37		1.37	2.46		2.46		東西	76.11					20			
馬渡遺跡	SB12	1	×	1	1.65		1.65	1.28		1.28	2.11		2.11		南北	77.58					20			
加治屋B遺跡	SB104	5	×	2	10.5		2.10	3.55		1.77	37.20		37.20		南北	33.81			34	65		24	96	●
加治屋B遺跡	SB106	4	×	2	7.2		1.80	3.5		1.75	25.20		25.20		東西	48.61			16	62		12	66	
加治屋B遺跡	SB109	3	×	2	6		2.00	4		2.00	24.00		24.00		南北	66.67			24	45		30	48	●
加治屋B遺跡	SB110	3	×	2	6.2		2.06	3.6		1.80	22.32		22.32		南北	58.06			40	50		52	94	
加治屋B遺跡	SB111	2	×	2	4.85		2.43	3.77		1.89	18.28		18.28		南北	77.73			35	40		10	40	
加治屋B遺跡	SB97	3	×	2	6.7		2.23	4.65		2.32	31.16		31.16		南北	69.40			32	50		36	75	
加治屋B遺跡	SB103	3	×	2	6.85		2.28	4.35		2.17	29.80		29.80		東西	63.50		総柱	38	64		52	84	●
加治屋B遺跡	SB105	4	×	2	7.35	10.35	1.83	4	7.1	2.00	29.40	24	53.4	四面？	南北	54.42			34	60		14	76	●
加治屋B遺跡	SB108	2	×	2	5.55		2.77	3.25		1.63	18.04		18.04		東西	58.56			32	67		21	52	
加治屋B遺跡	SB95	3	×	2	5.7		1.90	3.68		1.84	20.10		20.10		東西	64.56			22	34		20	62	●
加治屋B遺跡	SB96	2	×	2	4.85		2.42	2.68		1.34	13.00		13.00		南北	55.26			18	26		20	44	
加治屋B遺跡	SB98	3	×	2	5.85		1.95	4.2		2.10	24.57		24.57		南北	71.79			40	66		22	45	●
加治屋B遺跡	SB99	3	×	2	5.7		1.90	4.2		2.10	23.94		23.94		南北	73.68			36	64		15	106	●
加治屋B遺跡	SB100	3	×	2	5.97		1.99	4.07	5.6	2.03	24.30	9.1	33.4	一面	東西	68.17			16	28		22	40	
加治屋B遺跡	SB107	3	×	2	5.4		1.80	3.9	5.45	1.95	21.00	5.90	26.9	一面？	東西	72.22			24	46		18	72	
坂元B遺跡	SB4	3	×	2	6.25	7.38	2.08	4.29		2.15	26.81	4.85	31.66	一面	南北	68.64			27	40		6	32	
坂元B遺跡	SB6	2	×	1	2.75		1.38	2.15		2.15	5.91		5.91		南北	78.18			23	36		9	46	
坂元B遺跡	SB9	3？	×	2	4.2			3.64		1.82	15.29		15.29		東西	86.67			23	33		18	32	

桁・梁の単位は（m）、面積は（㎡）、柱穴掘形径・堀形深は（cm）。
梁間端深は、四隅の柱が深いものに●

表8　都城盆地における奈良・平安時代の主要掘立柱建物跡一覧4

遺跡名	遺構番号	間数			桁			梁			面積			廂	棟方向	平面指数		備考	柱穴掘形径＊四面は身舎			掘形深		梁間端深
					実長	実長（廂含）	柱間（平均）	実長	実長（廂含）	柱間（平均）	身舎	廂	総面積			身舎	廂含		最小	最大	平均	浅	深	
星原遺跡	SB09	2	×	1	4.2		2.10	2.6		2.60	10.92		10.92		東西	61.90			26	30		10	22	
星原遺跡	SB10	3	×	2	4.2		1.40	3.7		1.85	15.54		15.54		東西	88.10			34	50		24	60	
星原遺跡	SB11	3	×	2	4.06		1.35	3.5		1.75	14.21		14.21		東西	86.21			26	60		10	90	●
星原遺跡	SB14	3	×	2	4.8		1.60	3.3		1.65	15.84		15.84		南北	68.75			28	60		10	80	●
星原遺跡	SB15	3	×	2	4.85		1.62	3.25		1.63	15.76		15.76		東西	67.01			28	42		14	42	
星原遺跡	SB05	2	×	1？											南北				40	62		20	42	
星原遺跡	SB06	3	×	2	6.3	7.3	2.10	3.64		1.82	22.93	3.64	26.57	一面	東西	57.78			32	42		16	60	
星原遺跡	SB08	3	×	2	4.6		1.53	2.8		1.40	12.88		12.88		東西	60.87			20	38		20	42	
星原遺跡	SB13	2	×	2	4		2.00	3.9		1.95	15.60		15.6		南北	97.50		総柱	24	42		24	76	●
星原遺跡	SB01	3	×	2	6		2.00	3.16		1.58	18.96		18.96		南北	52.67			44	80		34	80	●
星原遺跡	SB02	3？	×	2									0		南北				40	80		26	80	●
星原遺跡	SB03	2？	×	1				3.1		3.10	0.00		0	一面？	東西				42	70		24	70	
星原遺跡	SB04	2	×	2	3.6		1.80	3.3		1.65	11.88		11.88		南北	91.67			30	72		24	64	
平田遺跡B地点	SB11	2	×	1	2.9		1.45	2.2		2.20	6.38		6.38		東西	75.86			20	40		10	50	
平田遺跡B地点	SB12	1	×	1	3.9		3.90	2.45		2.45	9.56		9.555		東西	62.82			40	50		30	40	
平田遺跡B地点	SB13	1	×	1	4.4		4.40	2.9		2.90	12.76		12.76		東西	65.91			50			20	40	
平田遺跡B地点	SB14	1	×	1	1.8		1.80	1.8		1.80	3.24		3.24		東西	100.00			15	30		10	20	
平田遺跡B地点	SB15	1	×	1	3.6		3.60	2.6		2.60	9.36		9.36		東西	72.22			30	40		30	40	
平田遺跡B地点	SB16	1	×	1	4.25		4.25	2.8		2.80	11.90		11.9		東西	65.88			50	80		50	70	
平田遺跡B地点	SB17	2	×	1	4.45		2.23	1.2		1.20	5.34		5.34		東西	26.97			30	40		20	40	
平田遺跡B地点	SB18	2	×	1	4.9		2.45	3.2		3.20	15.68		15.68		東西	65.31			30	60		10	60	
平田遺跡B地点	SB19	1	×	1	4		4.00	2.5		2.50	10.00		10		東西	62.50			20	80		10	30	
平田遺跡B地点	SB20	3？	×	2											南北				20	70		20	70	
平田遺跡B地点	SB22	2	×	1	5.3		2.65	2.9		2.90	15.37		15.37		東西	54.72			20	80		20	80	
平田遺跡B地点	SB23	1	×	1	3.6		3.60	3.2		3.20	11.52		11.52		東西	88.89			30			40	60	
平田遺跡B地点	SB24	1	×	1	2.4		2.40	2.4		2.40	5.76		5.76		東西				30			40	60	
平田遺跡B地点	SB25	1	×	1	2.4		2.40	2.35		2.35	5.64		5.64		東西	97.92			30	40		20	40	
平田遺跡B地点	SB26	1	×	1	4.2		4.20	2.6		2.60	10.92		10.92		南北	61.90			30	70		20	40	
平田遺跡B地点	SB27	1	×	1	3		3.00	1.6		1.60	4.80		4.8		南北	53.33			20	40		10	40	
平田遺跡B地点	SB28	3	×	2	4		1.33	3.5		1.75	14.00		14		東西	87.50			20	50		10	60	
平田遺跡B地点	SB29	3	×	2	6.7	8	2.23	4.6	5.9	2.30	30.82	16.38	47.2	二面？	南北	68.66		総柱	20	60		30	70	
平田遺跡B地点	SB32	1	×	1	2.5		2.50	2.4		2.40	6.00		6		南北	96.00			30			20	60	
平田遺跡B地点	SB33	4	×	2	8.8		2.20	3.85		1.93	33.88		33.88		東西	43.75			30	70		20	100	
平田遺跡B地点	SB34	3	×	2	8.9		2.97	3.95		1.98	35.16		35.16		東西	44.38			20	90		30	80	●
平田遺跡B地点	SB35	1	×	1	5		5.00	3.1		3.10	15.50		15.5		東西	62.00			50	80		70	80	
平田遺跡B地点	SB36	2	×	2	4.5		2.25	2		1.00	9.00		9		東西	44.44		総柱	30	90		20	80	
筆無遺跡	SB5	3	×	2	4.41		1.47	4.06		2.03	17.90		17.9		東西	92.06			40	60		50	70	

桁・梁の単位は（m）、面積は（㎡）、柱穴掘形径・掘形深は（cm）。
梁間端深は、四隅の柱が深いものに●